

青木繁《海の幸》誕生の家と記念碑を保存する会

会報 第2号 平成23年6月4日発行 会長：嶋田博信

事務局：〒294-0036 千葉県館山市館山95 小高記念館 TEL&FAX:0470-22-8271
公式サイト <http://aoki-shigeru.awa.jp/> ブログ布良・相浜の漁村日記 <http://ameblo.jp/mera-aihana/>

近代の日本画壇に鮮烈な影響を与え、28歳という若さで亡くなった天才画家・青木繁の没後100年にあたる今年、未公開作品を含め300点にのぼる大回顧展が、久留米・京都・東京で秋まで開催されています。

没後100年 青木繁展 よみがえる神話と芸術

石橋美術館（久留米）	2011.3.25（金）～5.15（日）
京都国立近代美術館（京都）	2011.5.27（金）～7.10（日）
ブリヂストン美術館（東京）	2011.7.17（日）～9.4（日）

短い生涯で最も幸せといわれる明治37(1904)年夏、房州布良(千葉県館山市)の小谷家に滞在して描いた《海の幸》や《海景(布良の海)》をはじめ、これまで未発表であった素描画や手書きの房州地図など、とても興味深い作品の数々に目を奪われます。翌年、お腹が大きくなった恋人・福田たねを伴い、再度訪れた房州伊戸の円光寺で、焼き釘を用いて目の前の太平洋を描いた板戸4枚も展示されています。岩に砕ける荒波を中央に、右端に富士山、左方面に伊豆大島・利島・式根島…などを配置してダイナミックに描かれ、明らかに伊戸(平砂浦)から見た海景であることがわかります。日本を代表する画家・青木繁が愛したこの地で描いた作品が、国の重要文化財に指定されていることは、私たち館山市民の誇りです。



*館山でも、青木繁・没後100年イベントを企画中です！

7月21日(木)8月24日(水) 没後100年・青木繁展(ブリヂストン美術館)鑑賞ツアー

要予約 富崎地区コミュニティ委員会共催 参加費3,000円(交通費・入館料)

7月23日(土) 14:00～ 青木繁が愛した漁村を歩いてみよう (ガイド付)

7月30日(土)・31日(日) 青木繁の《海の幸》を描いてんべえ絵画教室

8月27日(土) 14:00～ 没後100年・青木繁《海の幸》フォーラム

美術講座「布良という聖地～《海の幸》が生まれた場所」

講師：貝塚 健氏(ブリヂストン美術館学芸員)＝南総文化ホール小ホール

8月28日(日) 10:00～ 青木繁が愛した漁村を歩いてみよう (ガイド付)

9月11日(日)・12月11日(日) 漁村の料理教室「おらがごっつお(我が家のご馳走)」

…などなど、盛りだくさん。

※諸事情により日程・内容に変更がおきる場合もあります。
問合せ・申込みは保存会事務局あるいは運営委員まで。
0470-22-8271/090-6479-3498

会員募集中！

年会費 2,000円

漁村の活性化をご一緒に！

詳しくはおたずねください。

久留米ツアーレポート

* 没後 100 年の青木繁命日祭「けしけし祭り」に、館山から保存会メンバーが参列。

明治 44 (1911) 年 3 月 25 日、青木繁は 28 歳の短い生涯を閉じました。

放浪の末、病に倒れ、運命を覚悟したとき、姉妹に遺した手紙にはこう書かれていました。…原文は候文…

「骨灰は、ついでのとときに、高良山の奥のケシケシ山の松樹の根に埋めてください。

小生は、あのさみしい山頂より思い出多い筑紫平野を眺めて、

この世の怨恨と憤懣と呪詛とを捨てて、静かに永遠の平安なる眠りにつきたいと思います」

昭和 23 (1948) 年 3 月 25 日、生まれ故郷・福岡県久留米市のケシケシ山 (兜山) には、坂本繁二郎ら友人によって碑が建てられました。遺言どおり、繁の指の骨が、天をさした状態で埋められたとのこと。

毎年命日に近い 3 月下旬に、繁の画業を偲んで「けしけし祭」が行われています。



平成 23 (2011) 年 3 月 27 日、晴天のもと、第 58 回けしけし祭りが開催されました。

繁が滞在した布良の小谷家の後裔、小谷福哲さん (左から 2 人目) がカッポ酒の献酒儀式に参加しました。

順光寺にある青木繁の墓石



後列左より、久留米連合文化会・森史陽会長、榎原利則・久留米市長、館山布良の小谷福哲・由喜枝夫妻
石橋鉄也氏 (繁のひ孫)、高山喜一郎氏 (繁遺族)、久留米連合文化会役員
前列、左より、館山の保存会から鈴木瑞江さん、愛沢香苗・伸雄夫妻、池田恵美子さん

* 青木繁旧居をたずねて… 旧居保存会の皆様と。温かいほとめき (おもてなし)、ありがとうございました。



ここに
館山市指定文化財 小谷家住宅 -その1-

小谷家住宅は、洋画家青木繁が明治 37(1904)年夏、坂本繁二郎、森田恒友、福田たねとともに逗留し、洋画でわが国初の重要文化財に指定された「海の幸」を画いた家として広く知られています。

しかし、市の文化財として指定された理由は、その点にあるのではなく、建物それ自体が、館山市内に残る明治中期の上層漁家の家屋として歴史的価値が高いと評価されたからです。

小谷家は、江戸時代から続く漁家で、昭和 19年に廃業するまで船主でした。明治には、布良村漁師頭や布良救難所看守長を務めるなど、村の指導的役割を果たした家柄です。

布良は、明治9年、22年、大正2年に大火を被り、それぞれ229戸、74戸、137戸が焼失しています。資料によると、当時の家屋はほとんど茅葺屋根であったため、明治9年の大火のあと、村では家々の屋根を瓦葺にする計画が立てられましたが、簡単には実現しなかったようです。

小谷家住宅は、主屋が平屋建て寄棟造、棧瓦葺の建物で、明治 9 年の大火後に再建されたと言い伝えられています。しかし、後述するようにその間取りや垂木止めに洋釘を用いている点など、明治初期の造りより新しい傾向を示していること。また、明治 37 年には青木繁が逗留していることや客座敷平書院の欄間彫刻に明治 20 年代から活躍している後藤橋義信作の刻銘があることなどから、明治 22 年の大火後の再建ではないかと考えられています。

それでは、指定となった住宅を見てみましょう。南向きで、桁行5間半、梁間3間半の主屋の庇を廻した、桁行6間、梁間4間半の平屋建て寄棟造、棧瓦葺の建物で、庇屋根は一段低い棧瓦葺となっています。西側の台所・納屋部分は、もとは土間・炊事場を昭和 43(1968)年頃に立替えたもので、指定からは外されています。そして、このような建物の構造からみると、創建当時は現存する建ちの低い平屋建ての主屋の下手に差しかけの土間・炊事場を建てた、安房地方に多く見られる分棟型に近い形態であったと見られています。

小谷家入口で空をおおっていた庭木を伐採したところ、家の向こうに海と洲崎岬が見えるようになりました。天気の良い日には富士山も見えます。青木繁も感激した風景のひとつでしょう。



天井部にできたシミを調査したら、屋根裏の雨漏りが見つかりました。さらに、東日本大震災(館山は震度5)で屋根瓦がズレていることが分かりました。館山市教育委員会に文化財修理届を提出し、4月に緊急修理をおこないました。費用は、NPO法人青木繁「海の幸」会よりご寄付をいただきました。ご協力ありがとうございました。

保存会の役員です。よろしくお願いたします。

【会長】嶋田博信 【副会長】村田 猛、天野 努 【会計】佐野清彦、天野美津子
【監事】黒川彰宏、浅井 信 【事務局長】愛沢伸雄 【事務局次長】池田恵美子
【運営委員】青木美代子、磯部勲、小谷登志江、小谷信雄、小谷福哲、島田吉廣、鈴木瑞江、勢見勝美
武田愛雄、田村喜三男、出口忠明、豊崎榮吉、船田正廣、森 成吉、安田美恵子、山口栄彦
家守恵一、吉田年一、龍崎敦 (上記9名を含む)

保存会では、こんな活動をしています。

保存管理部会

青木繁没後 50 年を記念して、阿由戸浜を見下ろす高台に記念碑が建立されています。ここは伊豆の島々が見える絶景ポイントですが、春から夏にかなりの雑草が繁茂します。この地を訪れた方々が気持ちよく過ごせるように、年間4～5回の草刈り作業を10～13名で実施しています。

地域振興部会

漁村の生活文化や歴史の掘り起こしや、調査・記録を目ざしています。住民の皆さんの協力を得て料理教室「おらがごっつお(我家のご馳走)」や、布良大山ハイキング、安房節の踊りなどをおこなっています。レシピ集『おらがごっつお富崎』は 600 円で販売しています。



広報普及部会

青木繁没後 100 年の今年は、多くの報道取材が来ています。『芸術新潮』7月号にて特集 60 頁も組まれる予定です。さまざまなイベントを告知していきます。これまでの報道記事などは、ホームページから見られます。*公式サイト <http://aoki-shigeru.awa.jp/>
*布良相浜の漁村日記 <http://ameblo.jp/mera-aihama/>

募金部会

ロックシティ館山店(ジャスコ)では、毎月 11 日に「幸せの黄色いレシートキャンペーン」を実施しています。入口付近にある棚で団体の箱にレシートを入れると、総合計1%の商品が贈呈されます。昨年度は4,800円でした。現金・振込のご寄付も大歓迎。保存会を応援のほどお願いたします。

青木繁《海の幸》誕生の家と記念碑を保存する会 会員募集中!

年会費 2,000 円 本会の趣旨に賛同し、年1回の定期総会に参加する資格を有し、希望に応じて、活動に参加できます。入会希望者は、住所・氏名・電話番号を添えて、お近くの保存会役員に会費をお渡しください。あるいは、募金チラシの伝票にて「入会希望」と記し、会費をお振り込みくださるようお願いいたします。

* 郵便振込口座00150-6-616201 名義:青木繁《海の幸》誕生の家と記念碑を保存する会